

高温期における葉ネギの発芽を促進する 種子吸水処理技術

葉ネギ栽培において7～8月に播種する作型では高温により発芽が不安定となり、生育遅延や収量の低下が問題となっています。そこで、福岡県農業総合試験場では、種子の発芽を促進させ、生育を早めることにより、高温期に播種する作型において収量が増加する種子吸水処理技術を開発しましたので、その概要について紹介します。

☆ 技術の概要

1. 種子吸水処理の方法は、図に示すとおりです。葉ネギの種子を15℃で24時間水に浸漬し、水切り後、吸水性が良い布等の上に広げ、処理前の種子重量の1.50～1.55倍の重量（含水量60～70%）になるまで風乾させ、15℃で6日間密閉処理を行います。
2. 種子吸水処理を行い7月下旬に播種すると、ほ場での発芽率が80%以上に達する日数が、無処理より3～4日早くなり、収穫までの日数を8～10日短縮できます。
3. 種子吸水処理を行うと、収穫時の平均1本重が無処理より重くなり、商品収量が13～18%増加します。
4. 種子吸水処理が完了した種子は、密閉容器に入れ冷蔵庫（4～5℃程度）で保存しておけば、約2ヶ月間処理効果が持続するので、一度に複数回播種分の種子を処理できます。



図 種子吸水処理の方法

☆ 活用面での留意点

1. 15℃を保つために、農家保有の玄米保管庫、予冷库、JAの穀物貯蔵施設などを活用します。
2. 処理した種子は、播種までが短期間でも必ず冷蔵庫（4～5℃程度）で保管します。
3. 処理した種子は播種機で問題なく播種できますが、種子の容積が約1.4倍に増加するため、播種ベルト等の調整が必要です。
4. 詳しいことは、福岡県農業総合試験場 野菜部（TEL:092-922-4364）へお問い合わせください。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏）